

新たな地域コミュニティ支援事業にかかる受託者等の評価結果について（令和2年度）

1 支援の内容及び効果等

評価項目

「自律的運営に向けた地域活動協議会の取組（イメージ）」

- (1) 「Ⅰ 地域課題への取組」にかかる支援の状況（実績）及び効果等
- (2) 「Ⅱ つながりの拡充」にかかる支援の状況（実績）及び効果等
- (3) 「Ⅲ 組織運営」にかかる支援の状況（実績）及び効果等

評価	左記の理由
B	<ul style="list-style-type: none"> ・まちづくりセンター実施の交流会において、地域内でZOOMを活用し、地域課題やニーズの把握に必要なコミュニケーションの場づくりを実施した。実施後のアンケートでは、地域からは「ZOOMを使ってみてとてもよかった」「共有した事例は、地域にとっても役に立つ」などの意見があった。 ・コロナ禍における運営委員会書面決議方法についての支援を行うことで、集まることなく適切な時期に議決を実施することができた。 ・企業マッチングについて、呼びかけやアンケートを実施したものの、具体的なアプローチまでは実施できていないことから、アンケート集約後の支援方法について工夫が必要であった。 ・全地域共通課題にもあたる「新たな担い手の拡充」について、具体的な成果が見られなかった。

2 取組効果の評価（アウトカムに対する評価）

評価項目

アンケート調査

評価	左記の理由
A	<ul style="list-style-type: none"> ・市政改革プラン3.0改革の柱4「ニア・イズ・ベターの徹底」地域活動協議会構成団体が地域特性に即した地域課題の解決に向けた取組が自律的に進められている状態にあると思う割合令和2年度86.7%（令和2年度目標値77%）。 ・まちづくりセンターにおいて地域の実情やニーズに即した支援を実施していると思う割合は、86.2%で前年度（85.3%）とほぼ同等であった。しかし、「支援内容が地域活動協議会の活動状況や運営上の課題に応じたものとなっていないから」「支援内容を知らないから」との意見も挙がっており、コロナ禍における地域課題等の聞き取りの更なる工夫、支援内容の周知方法への工夫が必要であった。

3 総合評価【全体】

評価	左記の理由
B	<ul style="list-style-type: none">・新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、地域事業の中止や規模を縮小して開催される中で、書面決議の実施や ZOOM 活用など工夫を凝らし地域支援を実施した点について評価できるとともに、地域活動協議会構成団体アンケートにおいても目標数値を達成していることから、区の求める支援内容や目標の水準に概ね達している。・今後は、コロナ禍での地域事業の中止等の影響により担い手の縮小も懸念されることから、ウィズコロナに対応した地域活動の再開に向けた支援、地域活動に関わりの薄い層への参加促進や担い手の育成を含む第一層支援の推進に期待したい。

(評価基準)

- S：各区の当該年度の戦略に基づいた支援内容や目標の水準を大幅に上回っている。
- A：各区の当該年度の戦略に基づいた支援内容や目標の水準を上回っている。
- B：各区の当該年度の戦略に基づいた支援内容や目標の水準に概ね達している。
- C：各区の当該年度の戦略に基づいた支援内容や目標の水準を下回っている。